

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2392000143		
法人名	社会福祉法人寿宝会		
事業所名	グループホーム 真寿苑 Aフロア		
所在地	愛知県豊橋市牟呂町字東明治郷下1番地		
自己評価作成日	平成26年9月15日	評価結果市町村受理日	平成26年12月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉総合研究所株式会社		
所在地	名古屋市中区百人町26 スクエア百人町1F		
訪問調査日	平成26年10月9日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

基本理念である「全ては利用者様の笑顔のために」を基に、利用者様一人ひとりの生活リズムを尊重しながら安心して充実した日々を送って頂けるよう支援しています。職員が寄り添いながら見守る事で、出来る事を継続して行なって頂ける環境を整えています。職員が常に利用者様の目線に立ち、思いを共有しながら支援する事を意識し、出来ない部分をさりげなくフォローする事で利用者様の気持ちの部分の配慮に努めています。また、高齢者施設の特色を活かし、グループホームでの入浴が困難な方については1階の機械浴を使用する事で安全に入浴を楽しんで頂く環境を整えています。また、2階にある特養やケアサポートセンター、隣接する有料老人ホームとも全体行事などを通して交流を図り、施設全体で地区のお祭りに参加するなどの地域交流を行なっています。包括支援センターとも連携を図り、地域の方々に対し、認知症相談のちらしを配布したりと地域交流に努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

職員を担当制にして、利用者・家族と担当者との関わりを深くするように努めている。共有スペースは死角があるため、職員全員で注意して利用者を観察し、見守る体制をとっている。また、ケアプランを職員全員で作るようにして家族に理解できるようなプランを作成している。外出レクリエーションで、うなぎパイ工場や水族館に行ったり、誕生月には好きなものを食べに行くなどの外出支援に取り組んでいる。家族に対してアンケートを年に2回行っており、職員の意識も変わってきている。地域との関わりも法人を通して、年々深くなってきており、介護施設として地域に根付いてきている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人全体の介護理念をより深く掘り下げ、職員一人ひとりに分かり易くする事で、より実践に繋げる様努めている。また、法人の理念を下に自施設でのフロア目標を掲げる事で、理念をより身近な物として感じて頂けるよう努めている。	理念に基づいた介護についての目標を掲げ、セルフチェックを行い、寄り添ってケアができていないかなどについて話し合っている。足りない点を新たな目標に設定して、実践につなげるように努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の園児との交流を始め、高校の文化祭に参加したり、日常的にスーパーにおやつや買い物に出かけたりと1年を通して地域との繋がりを意識している。また、定期的に近隣へ清掃活動に出かけたり、認知症相談のチラシを配布したりと地域の方々との繋がりを意識している。	保育園の父母会が、ダンボールを回収に来たときに話をしたり、中・高校生の体験学習の受入れをして、子どもたちとの交流を楽しんでいる。散歩の折に目的を持って歩こうとの考えで、公園の清掃を週1回行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	中学生、高校生の職場体験を受け入れながら、実際に支援の方法や接し方を見て頂き、認知症への理解を深めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヵ月毎に開催し、地域の区長や民生委員、利用者のご家族様など様々な立場の方々との情報交換する事で貴重な意見を頂いている。また、地域の催しに参加する機会を頂いたり、施設での催しをお知らせする事で、参加を促している。	区長や民生委員などが会議に出席してもらうことにより、地域の行事に参加したときに丁寧に対応してくれている。また、民生委員より町内の介護に困っている人のことで、相談を受けることもある。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護認定の更新や運営推進会議の議事録等を長寿高齢課の担当者に報告し、情報交換を行う機会を設けている。	介護保険の申請や会議の議事録を持参した折に、担当者との情報交換している。市町村主催の実践者研修などに出席している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に対する指針を基に、職員一同、利用者様を抑制したり、制止することないように支援にあたっている。また、研修にも参加する事で、知識の習得にも努めている。	看護師が法人の身体拘束防止委員会の委員長になっているので、事例検討しながら拘束について説明している。法人内研修やセルフチェックの中にも拘束についての項目があるので、職員は周知している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修に参加し、知識を学ぶと同時に入浴時や着替えの際には身体の確認を行ない、施設全体で防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に参加するなど知識の向上に努めているが、職員全体に周知しているわけではない為、今後、施設内にて勉強会などを開催する事で周知の徹底を図りたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には事業所の方針やあり方、取り組みを細かく説明を行う事で、円滑な契約を押し進めている。また、終末期や医療連携体制などに関しては同意書を使用し理解を求めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に2回サービス向上アンケートを実施し、結果を基に改善に努める事でより良いサービスの提供に繋げている。また、ケアプラン説明時に関しても、ご家族様の要望、希望を取り入れるよう配慮している。面会時にもさりげなくご家族様の要望を聞くよう努めている。	担当制にしており、担当職員と家族との連携を深めることに取り組んでいる。利用者の帰宅の希望を受け、リハビリを重ね歩けるようになり、自宅へ戻り宿泊した例もある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃から職員とのコミュニケーションを意識し、定期的に個人面談を行う事で職員一人ひとりの思いや価値観を理解し、全体会議にて施設の方向性と照らし合わせながら個々の意見や提案を取り入れている。	月1回の責任者会議で、法人全体の現状を話し合い、その内容は職員にフィードバックしている。細かい業務改善は、職員より要望があれば対応している。人事考課の面談が半年に1回あり、職員は意見や要望を言いやすい環境である。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	日頃から職員との距離感を意識しながら、職員個々の心身面に注意を払いながら関わりを持っている。また、個人面談の際には、向上心を持つ事が出来るよう働きかけている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の経験や意欲に応じて、施設内、外の研修に参加させる機会を設ける事で個々のレベルアップに努めている。また、今年度より法人内の研修に力をいれ、年間を通じてスキルアップできるような体制をとっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	2ヵ月毎に連絡協議会に参加する事で、他事業所との意見交換や情報交換を行なっている。また、勉強会や行事も開催する事で職員同士も交流を図る事が出来ている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	フェイスシートを基に本人様の身体状況や生活歴、要望などを細かく把握する事で、サービス導入時には不安や心配事の軽減を図っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	在宅でのご家族様の思いや考え方を傾聴し、施設入所にあたっての、希望、要望を出来る限り反映させながら、サービスを提供出来る様に努めている。また、入居後も連絡を密に取る事で少しでも早く安心して頂けるように配慮している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	現状をしっかりと見極めながら、より迅速に対応するよう努めている。また、緊急性の高い方に関しては、法人内の事業所と連携を図り、よりスムーズにサービスを提供出来る体制を整えている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事の盛り付けや、洗濯干しやたたみ等、日常的に行なう家事は職員と一緒に出来ない、出来る喜びや楽しみを共有すると共に、感謝の気持ちを忘れず、相互の関係性の構築を図っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	施設での生活の状況や身体の状態などを毎月、手紙にて報告すると共に、面会時やお祝い事の際には利用者様とご家族様が楽しく過ごす事の出来る環境を整えながら関係性の構築を図っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者様、ご家族様の希望に応じて、なじみのある病院への通院やお墓参り、馴染みの方との面会など今まで築いてきた関係性を持続できる様に配慮している。また、ご家族様との連携を図りながら場合によっては職員が対応する事で、関係継続の幅を広げられるよう努めている。	利用者の馴染みの人や場所を大切に、誕生日の外出支援として行きたいところへ出かけている。新しい馴染みの場所としては、近所の喫茶店へモーニングに出かけ、ゆっくりと寛いでくこともある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様個々の性格をしっかり把握した上で、他者の方との関係性や、孤立してしまわないように配慮しながら交流場を設けている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても、関係が途切れてしまわないように常日頃からご家族様との連絡を密に取り、信頼関係の構築を図っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプランを基に統一したサービスを提供すると共に利用者一人ひとりの思いを尊重しながらの対応に心がけている。	日頃から利用者の様子をよく観察しており、表情や行動の中で要望を察したり、直接本人に聞いて把握している。また、家族の面接時に要望などの情報を貰うこともある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	面接記録やフェースシート等を使用する事で現在に至るまでの情報を把握し、また、ご家族様にも情報提供して頂く事でより細かい生活歴の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	面接記録やフェースシート等を使用する事で現在に至るまでの情報を把握し、また、ご家族様にも情報提供して頂く事でより細かい生活歴の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族の思いを尊重しながらも現在の状態に即した介護計画を作成し、職員全員で情報共有する事で、統一したケアを図っている。3ヶ月に1度モニタリングを行い、常に状態に即したプラン作成を心がけている。	日頃の様子等を介護記録に残して、家族から要望を聞き、定期的なモニタリングを行い介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活の様子や状態変化、職員や他者の方との関わり等、個別に介護記録に残す事でケアプランの見直しやよりよいサービス提供に繋がるように努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人様、ご家族様の希望や状況に合わせて通院や送迎、買い物等のサービスを提供する事で利用者様一人ひとりとご家族様の満足を得られる様努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	学生のボランティアや園児との交流、近隣の高校の文化祭やお祭りに参加する事で地域資源の活用に努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	施設の協力医は下より、ご家族様、本人様の希望にて、入居前にかかりつけ医だった医療機関も受診できるよう配慮している。施設とご家族様で連携を図りながら安心して受診して頂ける環境を整えている。	入居前のかかりつけ医には、家族が通院の付き添いを行っている。事業所の協力医の往診を受ける人は、協力医からかかりつけ医に指示書を出してもらった時もあり、連携は取れており安心である。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員が利用者個々の健康状態を把握し、協力医との連携を図る事で往診記録や医療面での情報の充実化を目指している。また、看護職員不在の場合に事故や医療処置が必要である場合は必ず電話連絡を行い、看護師指示の下、行なうよう徹底を図っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には施設での生活の情報や支援内容を医療機関に提供し定期的にお見舞いに行く事で常に状態把握に努めている。また、ご家族様との連絡も密に取る事でスムーズに退院できる様な体制を整えている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人様・ご家族様の希望を下に、かかりつけ医と連携を図りながら、個々の終末期に向けて早い段階から方針について話し合いを行い、ドクターとご家族様が直接話し合いをする場を設ける事でより納得して頂けるよう取り組んでいる。	今年度は、家族と医師、職員で話し合い統一したケアサービスを行い看取りを経験している。職員は看取りの研修も受けており、不安を抱かえることも少なくチームで支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生時・緊急時に備えてそれぞれにマニュアルを用意し、全職員が周知出来るようにすぐに確認できる場所に保管してある。また、定期的に救命講習の研修に参加し、実践出来るよう対策をとっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回防災訓練を行い、様々なケースを想定しながら避難訓練を行っている。また、他フロアの事業所とも連携を図りながら施設全体での訓練にも努めている。消火器や簡易発電などの使用方法についても実際に行う事で実践に備えている。	併設する同法人施設と合同での避難訓練と毎月地震、夜間想定、水害などテーマを決めて避難訓練を行っている。また、当施設は地域の避難場所となっており、地域の人との連携に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	相手を敬う気持ちを忘れず、利用者一人ひとりが深いと感じないような距離感に配慮しながらの対応に努めている。	接遇に関して職員教育が徹底しており、それが利用者と接する対応にも反映している。利用者を尊重し言葉づかいも丁寧である。居室に入る時はノックをしたり、声をかけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様個々のペースに合わせて支援が出来るよう配慮し、食事や入浴、就寝時間など出来る限り本人様の希望がかなう様に対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様一人ひとりの生活リズムを把握し、その日の気分や状態にあった支援に心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替えや整容に関しては本人様の意向に沿って行なっているが、困難な方に関しては、さりげなく準備し、会話をしながら支援する事で介護されていると感じないよう配慮している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者個々の能力に応じて、盛り付け、配膳、下膳など食事に関して関わる時間を設け、職員と一緒に行動することで、食事に対する興味や意欲の向上に努めている。	併設の同法人施設の管理栄養士が栄養バランスを考えた献立を作り、季節を感じる食材の配慮もしている。おやつ作りや外食することもあり、利用者が食事を楽しむことができるように支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分量は毎日記録に残す事で全職員で把握し、苦手なものなどがある場合には嗜好品を提供し代替する事で摂取量の確保に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後必ず口腔ケアの声掛けを行い、個々の状態に合わせて見守り・介助する事で清潔保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を下に個々のリズムに合わせた声掛けや介助を行なう事で、トイレに行かされているといった思いを少なく出来る様努めている。また、パットなどの排泄用品に関しては、必要時のみ使用する事で、少しでも不快な思いの軽減に努めている。	トイレでの排泄を基本として、利用者一人ひとりの排泄状況を把握して定期的に声をかけてトイレに誘導している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	午前のおやつにはなるべく乳製品の物を提供し、毎日の排便チェックを行う事で個々の排便のリズムを全職員が把握出来る体制を整えている。便秘が見られる方に関してはセンナ茶を提供し出来る限り下剤は服用しないよう努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	出来る限り本人の思いや意向に沿った入浴が出来る様、声かけの場所やタイミングにも配慮しながらの支援を行っている。	利用者の入浴は概ね1日置きに、午前と午後好きな時間帯にゆっくり入浴して貰っている。入浴拒否の場合は無理強いしないで翌日に入浴したり、職員を変えて声かけしたり、タイミングを見計らい声をかけるなど工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中活動的に過ごす事が出来る様支援する事で夜間はゆっくりと休んで頂く事が出来る様に強めている。また、昼夜問わず、その日の状態に合わせて休息する時間を設けたり、職員が寄り添う事で安心して頂ける環境を整えている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬の説明書を個々の薬入れ・個人ファイルに挟んで置く事で、いつでも確認する事の出来る体勢を整えている。また、受診先でも現在服用している内服薬の情報を医療機関に報告できるよう対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	テラスでの園芸・塗り絵や作品づくりなど、個々に興味がある事に関しては継続して行なって頂ける様支援している。また、塗り絵や書道などの作品については、廊下などに飾る事で本人様のモチベーションを上げるよう継続して頂けるよう配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	職員と一緒におやつの買出しに出かけたり、毎月第3週には近隣の公園などに清掃活動に出掛けたりと定期的に外出できる環境を整えている。また、本人希望時にはご家族様協力の下、外出できるよう努めている。	利用者の要望に応じて外出する機会を設けて、近隣の散歩や買い物に出かけている。また、家族と旅行をしたり、外食、買い物など戸外に出る機会が多い。月1回は外出レクリエーションがあり、少し遠方にドライブを兼ねて浜松のうなぎパイ工場見学、花見などの季節を感じる事が出来る外出支援に努めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	各ご家族様了承の下で金銭を所持して頂き、新聞や広告などで得た情報から利用者様自身が欲しいと思った物を購入出来るように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様や話をしたい方の希望があれば、職員が間に入り、スムーズに電話が掛けられるよう支援している。また、携帯電話を利用されている方も見える為、充電などの管理を行い、いつでも話が出来る環境を整えている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共同空間に関しては、安全に居心地良く過ごして頂けるよう余計な物等はおかず、季節に合わせて生花や作品などを展示する事で変化を楽しんで頂ける空間作りを目指している。	ユニット間が広い廊下で繋がっており、廊下の壁には利用者の作品が飾ってある。リビングにソファやテーブルが置いてあり、そこで利用者が個々にゆったり寛いでいるのがうかがえた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	複合施設特有の広さを利用し、廊下にマッサージ器や椅子を設ける事で個々の時間を過ごして頂ける空間を設けている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室はその方のプライベート空間であり、使い慣れた物・思い入れのある物などを配置する事で少しでも自宅で生活していた状態になるよう努めている。また、室内の配置も本人様の現在の状態に合わせて、ご家族様と相談の上、出来る限り希望に添えるようにしている。	居室は家族の写真、仏壇、時計、レクリエーションで作った作品、花など飾ってあり居心地の良い居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下やトイレなど広く設計されており、車椅子などを使用する場合でも安全に移動する事が出来る。また、トイレや各居室に名前などを張る事で視覚的に分かり易い様努めている。		